



製本ラインは5台の機械で構成している



1. これまでに出版した絵本の一部。大きな話題を呼んだ作品も
2. ものづくり補助金を利用して構築したハードカバーの製本ライン。少数の絵本を発行できる
3. 「補助金は大変ありがたかった」と語る木全哲也社長
4. 製本のマニュアル化も進めており、今後に期待がかかる



さんけいしゃ

所在地	愛知県名古屋市 北区中丸町 2-24-1	従業員	21人
設立年月	昭和44年5月	TEL	052(915)5211
資本金	1000万円	FAX	052(915)5019
		URL	http://www.sankeisha.com

株式会社三恵社

不可能とされてきた幼児向け絵本の少数発行、書店流通のための試作開発

印刷から出版事業にチャレンジ

三恵社は昭和38年、印刷業でスタート。飲食店のメニューブックなどを中心に手がけていたが、平成に入りIT化やペーパーレス化が進んだ。加えて、バブル経済崩壊で顧客の廃業が続き、打撃を受けた。そこで出版という新分野への挑戦を始めた。

きっかけは約20年前、木全哲也社長が現・立教大学経済学部部の山口義行教授を訪問したときのこと。山口教授から「現在の講義はレジメを配って進めている。このレジメを少数の冊子にして販売したらどうか」とのヒントを得た。同社はもともと「飲食店向けで数十部単位の手間のかかる印刷を得意としていた」（木全社長）ことから、大学向けの少数テキスト出版に着手。大学の先生の反応は良く、「出版事業に手ごたえを感じた」（同）。

そして、平成8年に出版事業部を立ち上げ

「少数でも読みたい人、必要な人に確実に渡る本」（同）を作り続けた。そして、これまでに1500点以上の出版実績を上げ、また大学向けのテキスト出版では全国の3分の1以上の大学と取引があるまでに成長した。

絵本で地方の情報を全国へ発信

そんな同社は数年前、絵本の出版に着目した。「絵本で地方の情報、魅力を全国に発信できないか」という社員の提案をきっかけにし、「例えば、地方のテーマパークを紹介した絵本を子供が集まる場所に無料配布し、テーマパークの集客につなげる」（同）という取り組みを始めた。

テーマパークだけでなく、地産品の販促にも有効と考え、同社は各所に提案。名古屋港水族館や八丁味噌に関する絵本の出版にこぎつけた。生物の絵が動画として再生されるAR技術を採用したり、QRコードの読み込みで八丁味噌を使ったレシピを表示したり、

工夫を凝らした絵本で評判を呼んだ。

「さあ、これから絵本だ」（同）と意気込んだが、ある課題が見えてきた。それは、ハードカバーの絵本を製本できる業者が、職人の高齢化などを理由に少なくなっていることだった。そこで同社は「今後、ハードカバーの製造技術まで押さえないければ、絵本事業ができない」（同）とし、平成25年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業（ものづくり補助金）により、ハードカバーの製本ラインを構築した。

ラインを活用した仕事も受注

同ラインは、100-200部程度を製本する少数向けで、同社の出版スタンスに沿ったもの。1冊単位の製本にも対応できるため、表紙を1冊ずつ変えることができる。このため、「世界に1冊だけの絵本を作ることができる」（同）。このアイデアから、出産祝いのギフトとして子どもの名前入り絵本を製

作する新ビジネスも生まれた。

このほか、同社はハードカバーの製本についてマニュアル化を進めている。少数の製本であれば、他社の仕事を請けることも視野に入れており、「製本ラインを活用できる仕事を広げていきたい」（同）としている。

「創造する精神」を発揮し成長へ

同社は出版事業のほか、飲食店向けにメニューブックなどのセールスツールの少数印刷やデザインを提供する外食産業サポート事業、各種広告媒体や食品パッケージなどのデザインを手がける広告デザイン事業を柱としている。

印刷が主力だった時代の苦しい経験から「脱刷宣言」をし、「印刷会社から印象会社へ」をコンセプトに社是である「創造する精神」を発揮、新しい分野に挑戦してきた。今後も、会社の成長というどんな物語の“絵本”を描くのか、注目されそうだ。

ハードカバーの製本ラインを構築。
世界に1冊だけの絵本づくりなど、
新たなビジネスの種も生まれる

CASE

09

株式会社三恵社

試作開発

+

設備投資

対象類型

革新的サービス

事業類型

一般型